

千葉県における二酸化炭素排出量

千葉県における 1990 年から 2004 年の二酸化炭素の排出部門(エネルギー転換部門、産業部門、民生部門家庭系、民生部門業務系、運輸部門、廃棄物部門他¹、工業プロセス) 別の二酸化炭素排出量の推移は、図 1-1 及び表 1-1 のとおりであり、2000 年をピークに 2001 年、2002 年はやや減少したが、2002 年から 2004 年にかけては若干増加した。

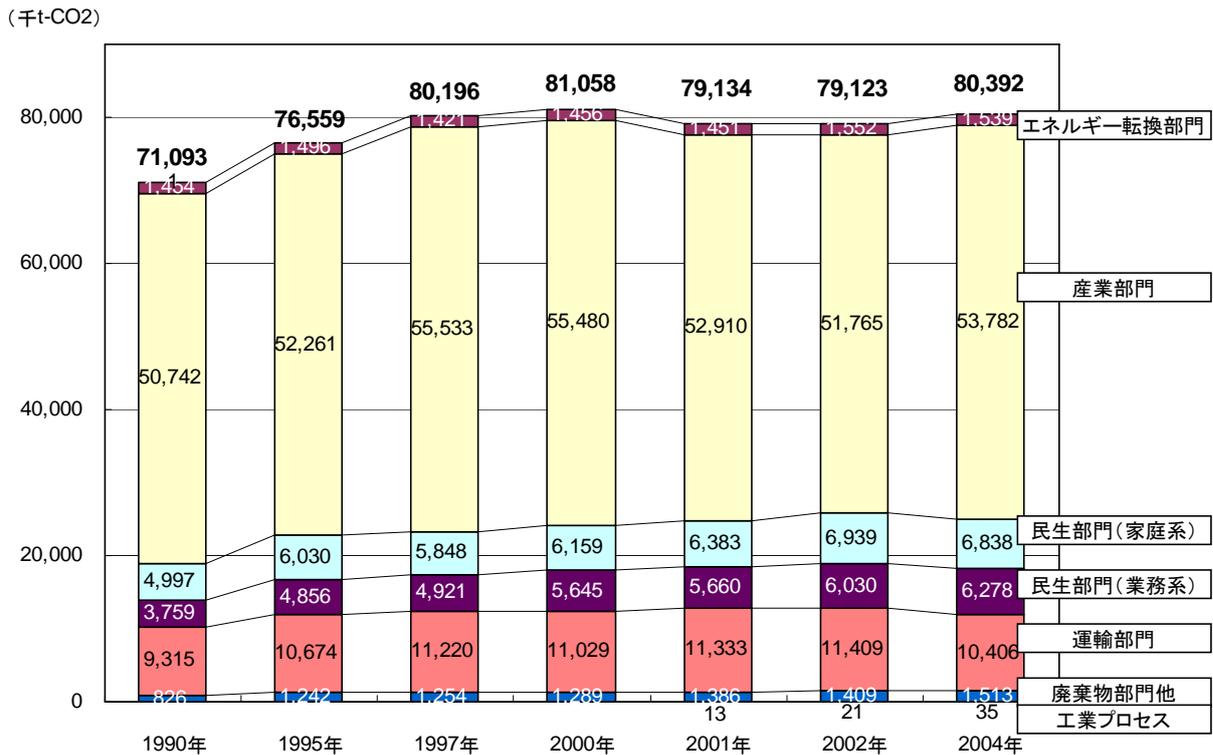


図 1-1 千葉県における二酸化炭素排出量の推移

表 1-1 千葉県における二酸化炭素排出量の推移

(千 t-CO₂)

	1990 年	1995 年	1997 年	2000 年	2001 年	2002 年	2004 年
エネルギー転換部門	1,454	1,496	1,421	1,456	1,451	1,552	1,539
産業部門	50,742	52,261	55,533	55,480	52,910	51,765	53,782
民生部門							
家庭系	4,997	6,030	5,848	6,159	6,383	6,939	6,838
業務系	3,759	4,856	4,921	5,645	5,660	6,030	6,278
運輸部門	9,315	10,674	11,220	11,029	11,333	11,409	10,406
廃棄物部門他	826	1,242	1,254	1,289	1,386	1,409	1,513
工業プロセス部門	0	0	0	0	13	21	35
合計	71,093	76,559	80,196	81,058	79,134	79,123	80,392

1 廃棄物部門及び水道供給(上水道、下水道)を合わせて廃棄物部門他としている。以下、部門別の集計等において特に記載がない限りは同じ扱いとする。

県民及び全国の一人当たりの二酸化炭素排出量の推移は図 1-2 のとおりである。千葉県における 2004 年の一人当たりの排出量は 13.3t-CO₂/人であり、全国の排出量 10.1 t-CO₂/人の 1.32 倍となっている。また、排出量の推移をみると、全国においては、1990 年の 9.3 t-CO₂/人から 2004 年の 10.1 t-CO₂/人にかけて 8.7%増加しているのに対し、千葉県においては、1990 年の 12.8 t-CO₂/人から 2004 年の 13.3 t-CO₂/人へと 3.8%の増加である。

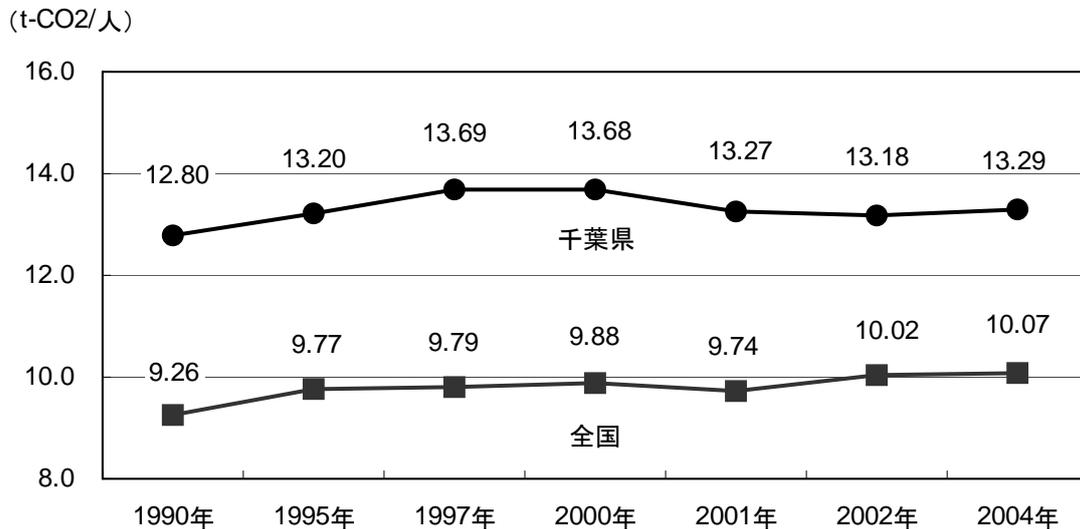


図 1-2 千葉県における一人当たり二酸化炭素排出量の推移

(1) 二酸化炭素排出量の伸びと構成比

- 千葉県における 1990 年及び 2004 年の二酸化炭素排出量と部門別構成比は、図 1-3 のとおりである。
-
- 2004 年の二酸化炭素排出量は 80,392 千 t-CO₂ であり、1990 年の 71,093 千 t-CO₂ から 13.1%の増加となっている。
- 1990 年比で 2004 年の部門別排出量の伸びが最も大きかったのは、排出量は少ないものの廃棄物部門他の 83.2%であり、以下、民生部門業務系 (67.0%)、民生部門家庭系 (36.8%)、運輸部門 (11.7%)、産業部門 (6.0%)、エネルギー転換部門 (5.8%) と全ての部門において増加している。
- 2004 年における部門別の構成比は、産業部門 67.0%、民生部門家庭系 8.5%、民生部門業務系 7.8%、運輸部門 13.0%、廃棄物部門他 1.9%となっており、産業部門の構成比が全体の約 3分の2を占めている。
- 1990 年と 2004 年の部門別の構成比をみると、民生部門業務系において 2.5 ポイント、民生部門家庭系において 1.5 ポイント、廃棄物部門において 0.7 ポイント増加している。一方、産業部門において 4.4 ポイント、運輸部門において 0.1 ポイント減少している。

(千t-CO₂)

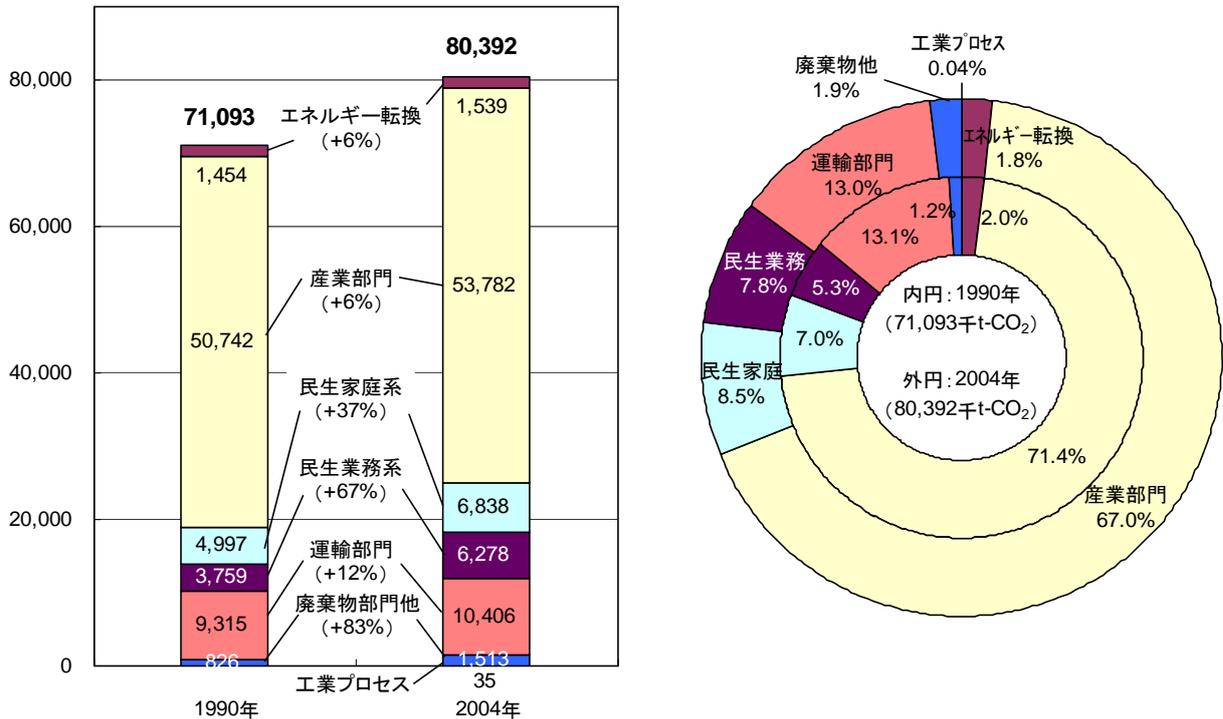


図 1-3 千葉県における二酸化炭素排出量の伸びと構成比

(2) 二酸化炭素排出量とエネルギー消費量

○ 千葉県における 1990 年及び 2004 年のエネルギー種別の消費量とその構成比は図 1-4、また、二酸化炭素排出量とエネルギー種別の排出構成比は図 1-5 のとおりである。

○

○ 2004 年のエネルギー消費量は 1,059PJ であり、1990 年の 906PJ から 16.8%の増加となっている。

○ エネルギー消費量の伸びに比べて、二酸化炭素排出量の伸び (13.1%) は 3.7 ポイント下回っている。

○ 1990 年と 2004 年のエネルギー種別の構成比をみると、電力が 0.6 ポイント、都市ガス・LPG が 0.6 ポイント、石炭等燃料²が 0.5 ポイントの増加、燃料油が 1.7 ポイントの減少となっているが、エネルギー種別の構成比に大きな変化はない。

○ エネルギー種別の消費量は、都市ガス、LPG が 23.4%、電力が 22.3%、燃料油が 10.6%、石炭等燃料が 18.5%の増加となっている。

○ エネルギー種別の二酸化炭素排出量は、都市ガス、LPG が 20.4%、電力が 18.6%、燃料油が 7.0%、石炭等燃料が 13.8%の増加と、エネルギー種別の消費量と同様な傾向を示している。

○ 2004 年のエネルギー種別の二酸化炭素排出量は、最も構成比の高い石炭等燃料が 1990 年

2 石炭、石炭コークス、炭化水素ガス等の燃料

に比べ 13.8%の増加であるのに対し、電力が 18.6%、都市ガス、LPG が 20.4%増加している。

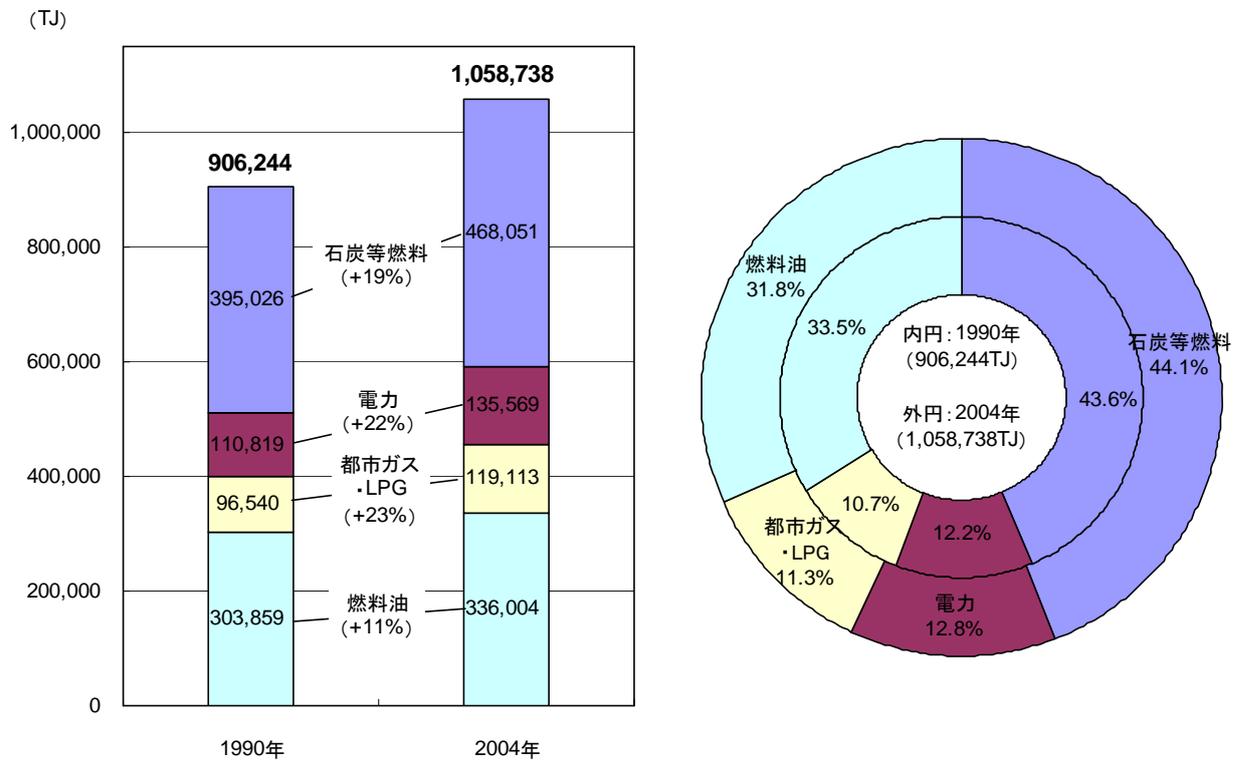


図 1-4 千葉県におけるエネルギー種別消費量の伸びと構成比

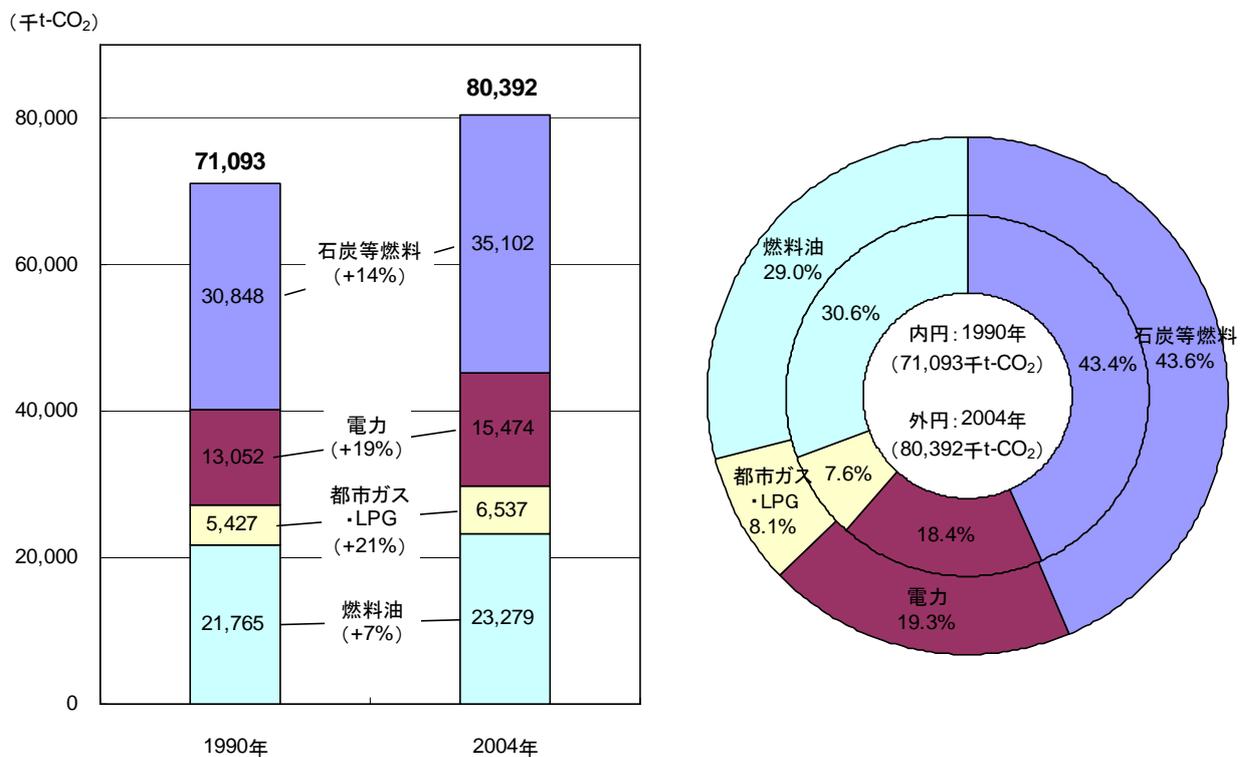


図 1-5 千葉県におけるエネルギー種別二酸化炭素排出量の伸びと構成比

(3) 千葉県と全国の比較

○ 千葉県と全国における 1990 年及び 2004 年の二酸化炭素排出量の部門別構成比は、図 1-6 のとおりである。

○

○ 2004 年における千葉県と全国の二酸化炭素の排出構造を比較すると、千葉県においては産業部門の占める割合（千葉県：67.0%、全国 36.0%）が極めて高くなっており、東京湾沿いの重化学工業を中心とした製造業からの排出量が多いことが特徴であり、前述のとおり、県民一人当たりの排出量も全国の 1.32 倍となっている。

○ 1990 年から 2004 年にかけて、千葉県及び全国の二酸化炭素排出量は、それぞれ 13.1%、12.4%の増加となっている。

○ 部門別の 1990 年から 2004 年の増減は、産業部門（千葉県：6.0%、全国：-3.3%）、民生部門家庭系（千葉県：36.8%、全国：32.3%）、民生部門業務系（千葉県：67.0%、全国：38.4%）については、千葉県の増加率が全国の増加率を上回っているが、運輸部門（千葉県：11.7%、全国：20.7%）については全国の増加率を下回っている。

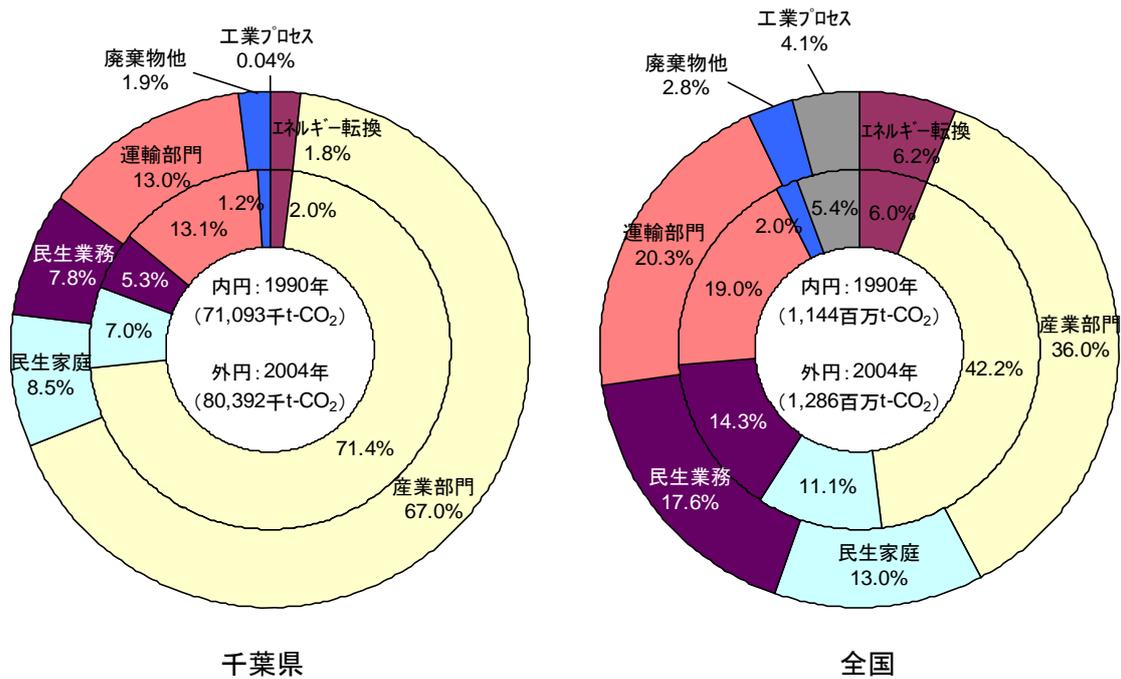


図 1-6 千葉県及び全国の部門別二酸化炭素排出構成比